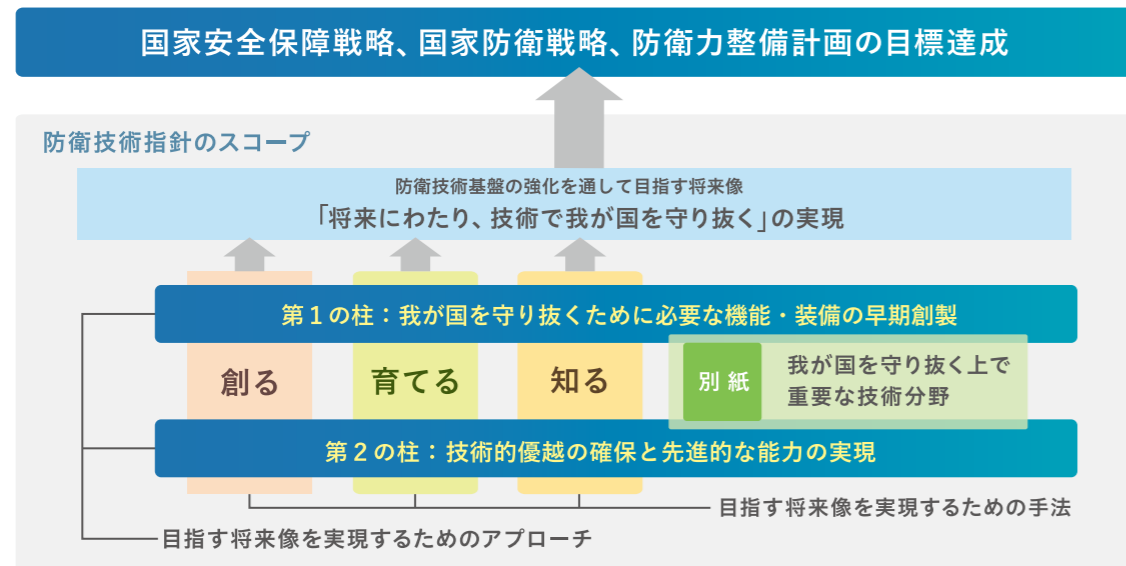


防衛技術指針2023 将来にわたり、技術で 我が国を守り抜くために の概要

国家防衛戦略及び防衛力整備計画において、企業等の予見可能性を高める観点から、防衛省が重視する技術分野や研究開発の見通しについて戦略的に発信することとされた。

1 策定の趣旨

- 国家安全保障戦略等3文書で示された、防衛技術基盤の強化の方針を具体化する。
- 防衛技術基盤の強化に必要な各種の取組を、省として一体的かつ強力に推進する際の指針となるよう、取組の方針をまとめる。
- 省外に防衛省が重点的に研究開発等を進める技術分野を示すことで、企業等の予見可能性を高めるとともに、省外との共通認識を醸成し、技術的な連携の基盤構築を目指す。



2 現状と課題

- 科学技術の進展は、戦闘様相も変えつつあり、装備体系の能力向上のみを続けるだけでは、我が国を守り抜くことができなくなる可能性がある。
- 我が国の科学技術・イノベーション力を安全保障目的で最大限に活用していく(スピノン)とともに、防衛省の研究開発の成果をスピノフしていくことが必要。

3 目指す将来像

「将来にわたり、技術で我が国を守り抜く」の実現

4 将来像を実現するためのアプローチ

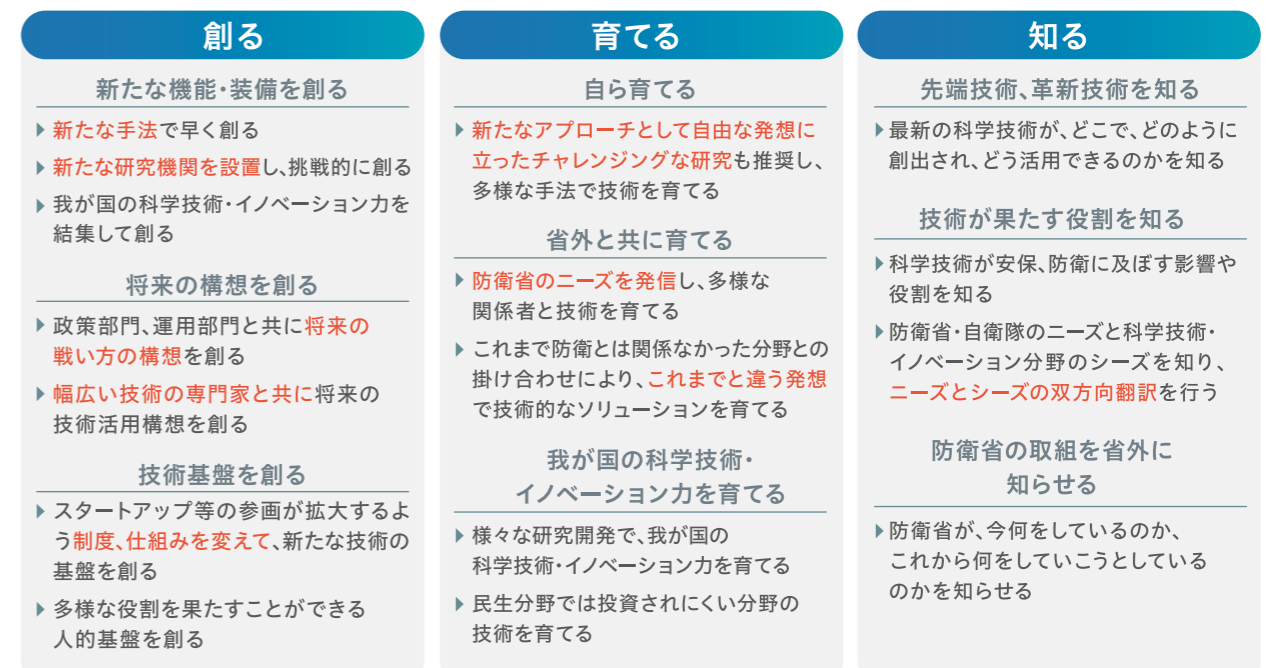
第1の柱: 我が国を守り抜くために必要な機能・装備の早期創製

将来の戦い方に直結する、我が国を守り抜くために必要な機能・装備を迅速に創製し、5年以内、又はおおむね10年以内の早期装備化を実現していく。

第2の柱: 技術的優越の確保と先進的な能力の実現

10年以上先も見据え、官民の連携の下で、様々な技術を我が国を守り抜くための機能・能力として実用化することで、我が国の防衛に変革をもたらす防衛イノベーションを実現し、将来にわたって我が国の技術的優越を確保し、他国に先駆け先進的な能力を実現する。

5 将来像を実現するための手法



6 おわりに

- 従来の考え方にとらわれずに「創る」「育てる」「知る」の取組を進め、第1の柱、第2の柱を実現していく。
- 安全保障と科学技術・イノベーションの橋渡しができる組織として、両者の融合をさらに積極的に進め、目指す将来像を実現するために、多様な政策、施策を積極的に実行していく。

別紙 我が国を守り抜く上で重要な技術分野

